

# 「本部」反動分子の「55・10」裏切り路線粉碎！

## 日刊 労働千葉

80.6.15

NO. 56

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
電話二二五八〇九（公衆電話）七二〇七

### 不当処分粉碎、35万人体制粉碎へ、 ときに決起しよう。

全国の動労組合員のみなさん。国鉄当局による「五・三一」不当処分は、今日の労働運動の右傾化の中で、「国鉄三十五万人体制」という名の未曾有の大合理化攻撃が「五五・一〇」を突破口として職場を直撃している情勢の中で、誰が階級的に闘っているのか、誰が当局の親衛隊なのか鮮明にするものでした。「千葉破壊への当局の協力」の代償に「五五・一〇」を当局に売り渡し、動労をセクトのためにのみ引きまわそうとする「本部」反動分子の制動を打ち破り、動労運動の戦闘的再生、国鉄三十五万人体制粉碎へ、ともに決起しようではありませんか。

#### 第二マル生による国鉄労働運動解体攻撃の開始

「五・三一」不当処分は、第一に、権力・当局が国鉄労働運動に対して国労・動労中央の屈服的路線をすら容認しないということ、「五六・三」ジェット燃料貨車輸送期限切れを前に、国鉄三十五万人体制粉碎闘争を最も原則的に闘い抜いている動労千葉の組織破壊を本格的に開始するということとを同時に示すものとして出されてきました。

第二に、この不当処分は国労、動労に対して「解雇ゼロ」ということをもって「七九春闘処分凍結」の「労資協調」を実質的に継続するということの代償として、下部役員・組合員に対して「処分の一ランクアップ」を行い、そのことを通して、当局は第二マル生攻撃を本格的に開始する準備をしているというのを見なければなりません。動労千葉に対する選別的に不当処分については、それ自体、「本部」反動分子が当局にそこまで手を貸してもらわなければ「千葉再建」ができません。

この不当処分粉碎への動労千葉の決起によって、夏季輸送や「五五・一〇」がギリギリと危機的な状況に追い詰められていることに対し、当局は、カメラや小型テープレコーダーを持った公安や局白腕章を前面に立てた挑発行動に出てきています。このことは、生産点への処分を一ランクアップしたことと補完し合うものとして、第二マル生の本格実施のための末端職制の「訓練」と生産点の組合員に対するどろり喝・示威行動として見なければなりません。

原則的闘い以外に職場と労働条件を守る道はない

今日、「三十五万人体制の初年度」としての「五五・一〇」は、当局は、国労・動労中央とは話をつけた、あとはどうしても言うことを聞かない動労千葉をツブすことだけだ」ということが公然と語られている状況があります。

動労千葉が十・二二〜十一・一ストをはじめとする七九秋年闘争で東京国電の乗務運用三割五分アップ攻撃の実態を暴露し、「本部」反動分子との野合をもつて「五五・三」を期してこの合理化を強行しようとした策動を粉碎し、この動労千葉の闘いに啓発された国労の戦闘的労働者の決りも含め、東京国電の乗務員運用合理化が六月↓九月と先送りされていることへの階級的憎悪を体現する選別的に不当処分攻撃を動労千葉は誇りをもって受け止め、怒りをこめて断固粉碎してゆく闘いに敢然と決起しました。

国鉄を解体的に再編し、同時に、国鉄労働者の闘いを圧殺してゆこうとする三十五万人体制攻撃に対し、権力・当局に身をすり寄せることで国鉄労働運動が強化され、職場と労働条件が守られるなどということは絶対にありえません。廃案になったとはいえ「国鉄再建法案」というところまで敵の攻撃が明らかになった現在、原則を守り、「五五・一〇」などの節をとらえ、敢然と闘いに決起する以外に、職場と労働条件を守る道はありません。

「本部」反動分子の「五五・一〇」売り渡し「裏切り」路線を断固粉碎し、国鉄労働者の未来を切り拓いてゆくために、共に決起してゆくではありませんか。

